

市長	副市長	教育長	教育次長	課長	館長	館長補佐	係長	記録

【所属名：教育委員会文化振興課（博物館）】
【会議名：糸魚川市博物館協議会 全体会】

開示
一部開示 (理由:条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会 議 録

作成日 平成 29 年 7 月 29 日

日	平成 29 年 7 月 6 日	時間	14:00 ~ 16:20	場所	フォッサマグナミュージアム 研修室
件名	議題 1 報告事項 1～5 (公開) 議題 2 協議事項 (公開) 1 平成 29 年度博物館協議会の活動計画について 2 博物館事業計画 (業務係担当分) について 3 博物館事業計画 (学芸係担当分) について				
出席者	【出席者】 7 人 専門部会 梶座副会長 天野委員 大塚委員 松岡委員 運営部会 池亀会長 渡辺委員 野本委員 赤野委員 中村委員 【欠席者】 1 人 運営部会 渡辺委員 【事務局】 博物館 大沢館長 竹之内館長補佐 古平業務係長 野本主査 茨木主査 小河原主事 傍聴者定員 人 傍聴者数 0 人				

会議要旨

<p>1 開会 (14:00) 大沢館長あいさつ</p> <p>2 自己紹介 委員並びに事務局自己紹介</p> <p>3 会長、副会長の選出 立候補、推薦なし。事務局案の通り池亀郁雄社会教育委員長を会長、梶座圭太郎富山大学教授を副会長とする。</p> <p>3 議題 (1) 報告事項 【事務局】 報告事項 1～5 を資料に基づき説明する。</p> <p>【委員】 販売実績のヒスイ製品とふるさと納税に関係はあるのか。誰が選んだのか。 【事務局】 ふるさと納税のお礼として何点か販売した。糸魚川駅北大火があったため納税が増えた。博物館で候補を挙げて、納税者が選んだ。</p>

- 【委員】 教育普及活動の実績の、おもしろみゅーじあむの「こども大会」の参加者数について、大人がゼロになっているが、これはおそらく化石レプリカの数のみであり、実際はぬり絵やスケッチに子どもを連れた大人も参加しているので、その数も入れるべき。
- 【事務局】 カウントしていないので、ゼロとせず、横線を入れることにする。
- 【委員】 博物館実習として、長岡造形大学も学芸員の資格を出せるのか。
- 【事務局】 確認する。(後日確認、OK)
- 【委員】 テレビ・ラジオ出演について、昨年12月末の「新潟県最古の化石発見」のプレスリリースのあと、FM新潟で紹介があった。
- 【委員】 博物館実習の期間(5日間)はどのように決めたのか。3単位であり、博物館によってはもう少し長い期間にしている。
- 【事務局】 博物館がオープンした頃に内部で相談し、5日とした。
- 【委員】 マイコミ平ツアーに力を入れているが、いつから力を入れているのか。需要があって年10回なのか。
- 【事務局】 5～6年ほど前から、着地観光の会が中心となって実施している。ジオパークになってから、完全に立ち入り禁止になり、年10回のツアーでのみ入れるようになった。最初は4回だったが、徐々に増えて10回になった。回数が増えすぎると植生が傷んだりするので、今後も10回前後で推移すると思われる。
- 【委員】 学校教育との連携で、市内小中学校の数は以前より増えているようだが、何か特別な働きかけをしたのか。
- 【事務局】 ジオパーク学習について、学校教育の方針に謳ってあり、各学校でジオパーク学習に取り組んでいる。その一環としてミュージアムを訪れている。年度初めに校長会の場で、フォッサマグナミュージアムやジオパークガイドの活用を働きかけている。
- 【委員】 学芸員の活動のリストについて、外からどのような評価を受けているのか。
- 【委員】 博物館業界としては画期的な活動で、全国的にも注目されていることにより、このように多いと思われる。どのように評価されるかは自治体ごとに違うと思うが、フォッサマグナミュージアムは糸魚川ジオパークの中核的施設であり、ジオパークの学術的な部門を担っていると全国に知られている。魅力があるので糸魚川を訪れる人も多い。単にたくさん働いていて忙しいということだけでなく、糸魚川市の誇りであると、市役所でもおそらくと思っていると思われる。
- 【事務局】 教育普及活動が多く、ここ10年ほど研究や収蔵活動の時間がとれなくなっており、活動のバランスがとれていない。博物館は研究によって新しい価値を見つけて発表していくことも大きな役割である。研究の部分が弱いと中長期的に見て弱くなっていく。教育普及と研究・収蔵をバランスよくしていきたいが、学校教育関係の依頼が多い。断るのも一つの選択肢かもしれない。どのようにしていったらよいか、アドバイスをいただきたい。
- 【委員】 国石にヒスイ、県の石にヒスイと糸魚川の化石が決まったが、広報しているのか。
- 【事務局】 県の石は展示をした。ヒスイについて、講演会、ポスターの作成・掲示をしている。東京駅に国石ヒスイのポスターを貼ってもらえるようになった。新幹線内で配布している冊子にもヒスイを取り上げてもらい、反響がある。
- 【事務局】 7月に、JR東日本の首都圏の全ての駅にポスターを貼ってもらっている。

【委員】 進学校も糸魚川に見学に来るが、フォッサマグナパークの解説看板の内容を簡単なものにしてしまった件について、簡単な内容と専門的な内容の二刀流にしておけばよかった。

【事務局】 もっと詳しく知りたい人や、子どもたちなど、いろいろなニーズに応えられるようにと考えている。世界ジオパークネットワークでは小学 6 年生がわかるようにと言うが、内容のレベルを下げるのではなく、わかるように説明すればよい、と考えている。レベルを下げればそれでいい、というわけではない。

【委員】 進学校が糸魚川に来る件について、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）が見学に来ることを視野に入れて、案内のしかたをルーチン的になるような工夫があるとよいのではないか。

【事務局】 ルーチン化は大事。

【委員】 購入標本の放散虫化石模型とはどんな形のものか。

【事務局】 発見された化石は棘が折れているなど不完全だが、他地域で発見された化石を参考に、完全な状態の模型とした。大きさは棘も入れて 15cm くらい。樹脂製で透明感がある。展示はこれから。（画像を見せて説明）

【委員】 化石の発見は新潟大学の研究報告に掲載されている。

【委員】 質問ではなく意見。学芸員による案内が多いが学芸員がやるしかないこと、とは言っても、たいへんであることを市役所側や他の人に分かってもらうための手段があってもいいのではないか。例えばフォッサマグナミュージアムの研究員として新潟大学の院生などに年に何回か来てもらえるような制度をつくり、予定がわかっていたら高校などの案内をしてもらう、ということをやっていけば、博物館的な考え方ができる専門家が增やせるし、社会的な影響力を出していける。できれば一般の方（ガイドなどの経験がある方）で協力いただける方に手伝っていただけると、今まで以上に館外の人との協力関係ができる。手伝った方が就職する時の前歴にもなる。

【事務局】 石の相談の業務は新潟大学の院生や卒業生から協力いただいている。それを拡大していくご助言だが、考えて行く。

【委員】 学芸員以外の方々の協力について、今後研究、実現して行っていただきたい。

【委員】 学芸員の養成は重要な課題である。標本の整理を、学芸員の養成に組み込んで、少しずつでも進むようにしてはどうか。

（2） 協議事項

【事務局】 平成 29 年度博物館協議会の活動計画について説明。
一同了承。

【事務局】 平成 29 年度事業計画、活動計画（業務係担当分）、フォッサマグナパーク断層露頭整備事業、学芸員の個人研究テーマについて説明。

【委員】 教育普及が増えた理由は、再審査の際の指摘への対応ということか。

【事務局】 そうではない。ジオツアーについて、平成 28 年度は 5 回であったが、市民から地形地質をテーマにしたツアーにしてほしいとの要望があった。ジオ講座、おもしろみゅーじあむについても同様に、動植物系に地形地質の講座を追加した。

- 【委員】 フォッサマグナパークの断層露頭の整備について、断層露頭を広げたら、崩れてくるのではないか。
- 【事務局】 検討委員会の委員の方々から、屋根をつくる、トンネルを掘るなどの案を出していただいたが、予算の問題や、景観にも支障があるなどの問題がある。もと文化庁の方も委員におり、費用対効果を考えると屋根はつけないということに決まった。
- 【委員】 もと文化庁の方は、雨があたること露頭面がきれいになる効果が期待できる、上屋をかけるとカビが生えることがある、とのご意見だった。露頭の勾配について結論が出ていないが、安全と見やすさの両方を得られるよう、専門家により検討中。
- 【委員】 フォッサマグナミュージアムの断層露頭へのアプローチのところにある解説看板は、以前は詳しい説明だったが、更新して簡単なものになってしまった。
- 【事務局】 確かに易しくなりすぎた。ジオパークの初期の頃は地形地質と人々の暮らしとの関わりを強調するような風潮だった。2015年にジオパークがユネスコの正式プログラム化され、地形地質をアピールするような風潮に戻ってきている。
- 【委員】 収蔵活動について、収蔵資料の整理はどのくらい進んでいて、どのような問題があるのか。
- 【事務局】 紙ベースの標本登録台帳には6,000点くらい登録してあるが、それ以外の標本が多くあり、整理が進んでいない。学芸員の時間が取りにくく、新たな資料が集まっても標本庫が手狭である。リニューアル以降、増築の予算要求をしているが、実現できていない。統廃合により空いている学校などを暫定的に使うことなどを検討する。
- 【委員】 標本のデータベース化も重要なので進めてほしい。施設によってはWEBで標本写真を公開しているところもある。できればそこまでしてほしい。
- 【事務局】 標本を整理して番号をつけて、データベースに入力するという流れになる。インターネットで収蔵標本を検索できるようになるのが理想的だが、現在はそこまで検討していない。委員のご意見を参考に、大学の学生・院生に協力してもらい仕組みを作っていく必要がある。
- 【委員】 化石の専門家は化石を大事に扱うが、岩石の専門家は石を切断したり粉にしたり薄片を作成したりする。標本番号がわからなくなならないような追跡の仕組みが必要。糸魚川の場合はヒスイの保管の際に注意が必要。
- 【事務局】 再任用の学芸員が勤務しており、他の学芸員とともに標本の管理を一緒に進めていきたい。
- 【事務局】 糸魚川市は人口44,000人の小さな市だが、学芸員がこれだけいる、博物館にこれだけ予算をかけている自治体は他にない。研究を進める時間をもっと確保したいが、集客を重視して学芸員が休みを十分にとれない事態になっている。友の会会員など、応援団として協力してくださる方々によりNPOのような組織ができればと考える。ミュージアムの予算だけで研究などすべてを行うことは難しい。平成6年に博物館を整備した時の市長から「清水（きよみず）の舞台から飛び降りるつもりで作った」とお聞きした。応援団を作っていき、教育普及活動にも協力いただきたい。よい知恵があればお借りしたい。
- 【委員】 関連して、友の会行事や教育普及活動のメニューを増やしても、参加者が同じような人

であったら、活動を整理して階層化していくべき。メニューが多すぎる。数年前にも参加者の固定化が問題になった。

【事務局】 ミュージアム友の会、きらら自然の会は、自分たちの力で活動したいが、学芸員の力を借りないと事業ができない。友の会の合併も必要かもしれない。

【委員】 今後、必要であれば部会でも話し合ってもらいたい。運営部会は昨年の年度末に開催された。専門部会は開催されなかったが、今年は開催しないのか。

【事務局】 専門部会は、博物館の将来をどうするのかという問題も含めて、開催させていただきたいと考えている。

【委員】 運営部会の開催はどうか。

【事務局】 3月に開催されるのは、次年度予算の件になるので、今年度も3月開催を考えている。

【委員】 全体会議でその年度の事業についてご意見をいただき反映させる。運営部会が年度末に開催されるのは別の目的があるのか。今年3月の運営部会で出た意見は反映されているのか。

【事務局】 いただいた意見は、前年度を踏まえて今年度の事業へのアドバイスなどなので、反映させるのはもう少し先になる。

【委員】 今回の報告事項の中身が、3月の運営部会の内容と重複している。教育普及事業等が多くて学芸員がたいへんであることはすでに聞いている。

【事務局】 運営部会の中身についても改善していく必要がある。委員の方々のご提案や、事務局でも案を出して、議題を用意していきたい。

【委員】 運営部会で出された意見で、解決に至らないことはあるのか。専門部会とも課題を共有して、解決策を検討していきたい。

【委員】 全体を通して、平成29年度は行事の回数が増えているが、次回の全体会で、どのような形で負担の軽量化をしたのかがわかるように示してほしい。

【事務局】 いただいた意見に対して、聞きっぱなしのことがあったと反省している。ご意見に対してどう改善していくか、協議会の場で公にしていきたい。全体会と部会を有機的に結びつけてそれぞれの役割を明確にし、改善した点、できなかった点とその理由を示し、実り多い会議にしていきたい。

【委員】 観光案内所にいると、国石になったヒスイのポスターに使われている写真が売っていないかと聞かれるが、クリアファイルを作って販売することはできるか。ヒスイの写真を菓子などの包み紙にしてはどうか。

【事務局】 現在フォッサマグナミュージアムで売っているのは当館オリジナルのもの。国石のPRに使った写真は、絵はがきにしてある。商品開発について検討させていただく。

6 閉会

大沢館長あいさつ

16:20 終了

以上